

意味の対照研究の難しさ

井上 優

キーワード： 対照研究、韓国語、中国語、意味と語用

要旨

言語の対照研究は、比較対照を通じて各言語の特性を明らかにし、各言語を公平に見るための視点を見出す研究である。言語の比較対照はいろいろな発見につながるが、「意味の対照研究」には難しいところもある。第一に、意味に関する言語間の類似と相違を把握するためには、各言語の母語話者の内省をかなり具体的に把握することが必要である。第二に、2つの言語の対応する表現の使い方が異なる場合、①表現の意味は同じだが、文化的な相違などの語用論的な理由により使い方に違いが生ずるのか、それとも、②表現の意味が違うから使い方も違うのかを見極める必要がある。

1. はじめに

言語の対照研究は、複数の言語を比較対照することを通じて、各言語の特性を明らかにし、各言語を相対化する（公平に見る）ことができる視点を見出す研究である。1つの言語だけを見るよりも、他の言語と比べたほうが、研究の出発点となる問いも含め、いろいろなことが発見できる。また、「各言語を公平に見るための視点」が見出せたときは、言語の普遍性と多様性の一端に触れたような気持ちになれる。その意味で対照研究はおもしろい。しかし、その一方で、対照研究、特に「意味の対照研究」には難しいところもある。本稿では、①母語話者の説明をどう理解するか、②「意味」の問題か「語用」の問題か、という2つの観点から、意味の対照研究の難しさについて述べる。

2. 母語話者の説明をどう理解するか

まず、対照研究においては、各言語に関する先行研究の記述や母語話者のコメントとうまくつきあうことが難しい。言語研究において母語話者の内省は重要だが、母語話者は自分の内省を分析的に説明してくれるわけではない。また、母語話者にとっては「こう言うしかない」という説明でも、それが非母語話者にわかりやすいとは限らない。

たとえば、日本語では、(1)のように「待っていたバスがこちらに向かって来るのが見えた」という状況で、「来るのが見えた」という気持ちで「来た」と言えるが、韓国語では「来るのが見える」という気持ちで「onta」(来る：Yale式ローマ字)と言う。「こ

こちらに来る」のを見ながら「wassta」(来た)とは言いにくい¹。

(1) (バス停でバスを待っていたら、バスが向かってくるのが見えた)

- a. 来た。(=来るのが見えた)
 b. onta./#wassta. (#:当該文脈で使用不自然)
 来る 来た

(2)のように「探していたものを発見した」という状況でも、日本語では「あるのが見えた」という気持ちで「あった」と言うが、韓国語では「あるが見える」という気持ちで「issta」(ある)と言う。「眼前にある」のを見ながら「isssesta」(あった)とは言いにくい。

(2) (名簿で井上の名前を探している)

- a. えーと、井上、井上…。あった！(=あるのが見えた)
 b. issta./#isssesta.
 ある あった

これは、日本語では、眼前に存在する動きや状態が知覚されたその瞬間(発話時の少し前)の内容だけを過去形で述べることができるが、韓国語ではそれができず、眼前の動きや状態は現在のもので述べられる(動きや状態が知覚されなくなった後に過去形が用いられる)ということである(井上・生越 1997)。

このように説明すると、韓国語母語話者の多くは、韓国語でも「待っていたバスがこちらに向かって来るのが見えた」という状況で過去形「wassta」(来た)が使えると言う。伊藤(1990)でも、(3)のように、探していたものを発見したときに「isssesta」(あった)を用いるという例があげられている。

(3) (探しても見つからなかった傘が予想外の場所で偶然見つかった)

- a! yeki issess-ney. (伊藤 1990: 文脈追加)
 あ ここに あった-詠嘆

しかし、韓国語母語話者によく聞くと、「待っていたバスがこちらに来るのが見えた」という状況で過去形「wassta」(来た)が使えるのは、(4)のように「やっと来た」とい

¹ 梅田・村崎(1982)は、韓国語の非過去形の用法について説明する中で、次の例文をあげて、「来た」という日本語訳を付している。ただし、この点に関する説明はない。

・(cencha-ka) onta, onta. ((電車ガ) 来タ、来タ)
 電車-が 来る 来る

(梅田・村崎 1982:44、韓国語の表記を Yale 式ローマ字に変更)

う気持ちの場合である。この場合、話し手は「バスがこちらに向かって来る」ことには注意を払っておらず、「見えたら到着したも同然」という気持ちで過去形「wassta」（来た）を用いている。

- (4) (なかなか来なかったバスがようやく来た。「やっと来た」という気持ちで)
- a. (やっと) 来た。
 - b. (kyewu) wassta.
やっど 来た

また、(3)の「yeki issess-ney」（直訳：ここにあったなあ）は、「あるのが見えた」ではなく、「本当はここにあったのか」という気持ちの発話である。この場合、話し手は眼前の状況を問題にしているのではなく、話し手の過去の認識を改めているので、過去形「issessessta」（あった）が用いられる。

この例に限らず、対照研究においては、表現の意味や使い方をかなり具体的に把握しないと言語間の類似と相違が把握できないことが多いが、個別言語研究の記述や母語話者のコメントはそこまで具体的ではないことも多い。個別言語研究の記述や母語話者の説明を正確に理解するには、他の言語とも比べながら「どのようなことを言おうとしてそのように述べているか」を見極める必要がある。

もう1つ例をあげよう。張英(2000)は、日本の中国語教科書に見られる「中国語として不自然な表現」を取り上げ、どのような点で不自然かについて解説したものである。(5)はそのような例の1つである。

(5) (A と B は友人)

A: 最近 我 感到 身体 有点 不舒服。

最近 私 感じる身体 少し 心地よくない

(最近体調があまりよくないんだ。)

B: #那么, 你 到 医院 找 医生 看一看, 怎么样?

それでは あなた 行く病院 訪ねる 医師 ちょっと見る どう

(意図した意味: じゃ、病院に行って診てもらったらどう?)

(張英 2000:52、一部改変。日本語訳井上)

張英(2000)は、(5)の場面で“怎么样?”(どう?)を含む疑問文を用いるのは不自然であるとし、その不自然さについて次のように説明している。

- (6) 相手に病院に行くよう意見するのに“怎么样?”(どう?)を用いるのは、相手に責任を負わせるという印象を与える。それゆえ、文全体が友人のことを気づ

かっている、思いやっているというニュアンスにならない。(略)

中国人のコミュニケーションの習慣からすると、もし友人が体調がよくないということを聞いたら、通常は友人を気づかう口調で彼に意見を述べるか、単刀直入に病院に行くよう勧めるかするだろう。例：“是吗？你应该去医院看看！”（え、そうなの？ 病院に行って診てもらったほうがいいよ！）、“是吗？快去医院看看吧！”（え、そうなの？ 早く病院に行って診てもらいなよ！）。特に近い間柄であれば、気をもんだ口調で相手を問いつめるだろう。例：“是吗？你怎么不去医院看看？”（え、そうなの？ なぜ病院に行って診てもらわないの？）。

(張英 2000:52、原文中国語、日本語訳井上)

この説明は中国語母語話者には自然な説明だが、日本語母語話者にはわかりにくいところがある。日本語では、同じ場面でも「どう？」を含む疑問文が自然に使えるからである。

(7) (A と B は友人)

A：最近体調があまりよくないんだ。

B：だったら、病院に行って診てもらったらどう？

「…したらどう？」は、(8)のように、単なる提案の場合にも使えるが、(9)、(10)のように、「こうしたほうがいい」「こうすべきだ」という気持ちで相手に助言・忠告する場合にも使える。一方、同じ「どう」を用いた表現でも、「…する（という）のはどう？」は「このアイデアについてどう思う？」と相手に意見を求める表現であり、「こうしたほうがいい」「こうすべきだ」という気持ちでは使えない（井上 2018）。

(8) A：どこか海外旅行に行きたいなあ。

B：a. だったら、台湾に行ったらどう？（それがいいと思う。）

b. だったら、台湾に行く（という）のはどう？（どう思う？）

(9) ((5)、(7)の場面：「体調があまりよくない」という友人に)

a. だったら、病院に行って診てもらったらどう？（そのほうがいい。）

b. #だったら、病院に行って診てもらう（という）のはどう？（どう思う？）

(10) (相手が黙って何も言わないことに腹を立てて)

a. 黙ってないで、なにか言ったらどう（なの）？（そうすべきだ。）

b. #黙ってないで、なにか言う（という）のはどう？（どう思う？）

“怎么样？”を含む疑問文は、日本語の「…する（という）のはどう？」と同じく、話し手のアイデアについて聞き手に意見を求める発話であり、「こうしたほうがよ

い」「こうすべきだ」という気持ちの発話にはならない。張英(2000)の「相手に責任を負わせるという印象を与える」、「文全体が友人のことを気づかっている、思いやっているとニュアンスにならない」という説明もこのことを指している。対照研究は、母語話者の説明を分析的な観点からとらえなおすという意味でも重要なのである。

3. 「意味」の問題か「語用」の問題か

意味の対照研究のもう1つの難しさは、対応する表現の使い方が異なる場合、①「意味は同じだが語用論的な理由により使い方が違う」のか、あるいは、②「意味が違うから使い方も違う」のかを見極める必要があることである。このことは、コミュニケーションに関係する言語間の相違について考える場合には特に重要である。表面的には「ものの考え方」や「コミュニケーションの習慣」の違いのように見えて、実際は「表現の意味が違うから使い方も違う」ということが少なくないからである。

たとえば、日本語では、家族の間で「ちょっと醤油とってくれる?—はい。—ありがとう」のような会話をするのは不自然ではないが、中国語では、家族の間で“谢谢”と言うのは他人行儀で不自然である。中国語でも、子どもが母親から誕生日のプレゼントをもらって、うれしそうに“谢谢, 妈妈”(ありがとう, お母さん)と言うことはあるが、醤油を取ってくれた程度のことで“谢谢”と言うのは不自然である。

このことは、日本人と中国人の考え方の違いとして説明されることがある。

(11) その中国人教授への取材は、「中国人と日本人との違い」というような内容だったのですが、中国人は家族(略)には、わざわざ「ありがとう」など、感謝の言葉は言わない、という話でした。その理由は「家族なのだからやってあげる、やってもらうのは当たり前。口に出してお礼を言うことは水臭い」からです。(略)

日本では家族に対して、感謝の気持ちを口に出したり(略)ということが多いと思います。(略)先日、理想の夫婦といわれる三浦友和さんもテレビのインタビューで「夫婦がうまくいくには、感謝の言葉をきちんとということ」とおっしゃっていましたが、日本では「親しき仲にも礼儀あり」という言葉もある通り、「ありがとう」は、内と外に関係なく、いや、身内だからこそ、わざわざ言うことが大事だと教えられます。

(「ジャーナリスト中島恵のブログ」より：<http://keinakaji.exblog.jp/16972271/>)

「家族の間ではやってあげる、やってもらうのは当たり前だから、“谢谢”とは言わない」という説明は、中国語母語話者にとっては自然な説明である。しかし、この説明も日本語母語話者にはわかりにくい。「家族の間ではやってあげる、やってもらうのは当たり前」という感覚は日本人も同じだからである。

実際は、「谢谢」が家族の間で使いにくいのは、「谢谢」が「ありがとう」よりも「どうもありがとう（ございます）」に近い「あらたまり」の表現だからである。日本語でも、家族の間で「どうもありがとう——いえいえ」という会話をするのは他人行儀で不自然だが、中国語で家族の間で“谢谢”と言わないのもそれと同じである。相づちに典型的に現れるように、日本語は相手の発言や行為にことばで反応することが本質的に重要であり、ことばで反応しないと相手の発言や行為を無視したことになる。家族の間で「ありがとう」と言うのも、感謝の気持ちを表すというよりは、相手の行為を受けとめたことを示しているだけ（それゆえ「いえいえ」と応じる必要もない）と考えればよい。中国語は、相手の発言や行為にことばで反応することが日本語ほど重要ではなく、それゆえ“谢谢”は文字通り感謝の気持ちを表す「あらたまり」の表現になる（井上2016a）。

平叙文・疑問文・確認文といった基本的な文の意味も、日本語と中国語では意外に異なる。

(12) (聞き手が髪を切ったのを見て)

- a. あ、髪を切りましたね。とても似合いますよ。（確認文）
- b. #あ、髪を切りました。とても似合いますよ。（平叙文）
- c. 哟，你 剪 头发 了，真 好看。（平叙文）

あ あなた 切る 髪 変化 実に きれい だ

(直訳：あ、あなたは髪を切りました。とてもきれいだ。)

神尾(1990)が言うように、日本語の平叙文は「聞き手が持たない情報を聞き手に提供する」文である。(12)のように、聞き手のほうが知っている事柄について述べる場合は、「ね」を用いて確認する形をとる。一方、中国語の平叙文は「話し手が有する情報を述べる」だけの文であり、(12)においても、話し手は自分が知覚した内容を述べているだけで、聞き手が持たない情報を提供するという意味はない。木村・森山(1997:269)が述べるように、「中国語の場合、話し手の認識こそが[文の述べ方を決める]基準となるのに対し、日本語の場合、聞き手の認識を談話の内部で尊重しなければならない」のである。

これに類する相違は、疑問文と確認文の使われ方にも見られる。

(13) (重い荷物を持っている聞き手のことを心配して)

- a. ヤスさん……だいじょうぶ？ 重うない？（重松清『とんび』角川文庫:33）
- b. 安子，不要紧 吧？ (#不要紧 吗?) 重不重 啊？

大丈夫 だろう 大丈夫 か 重い-重くない 強調

(帅松生訳《世上最疼我的人》中信出版社:24)

日本語の場合、(13)の場面では疑問文「大丈夫ですか？」を用いるのが自然である。確認文「大丈夫でしょう？」「大丈夫ですよ？」を用いると、話し手が「大丈夫」と一方的に決めつけて聞き手におしつけていることになり、不自然である。一方、中国語では、(13)の場面では確認文“不要紧吧？”を用いるのが自然である。“吧”を用いないと聞き手のことを思いやっていないことにならない。疑問文“不要紧吗？”を用いると「本当に大丈夫なの？」と疑っていることになり、(13)の場面では不自然である。

井上(2016b)では、このような相違を、中国語は「話し手の認識」を基準にして、また日本語は「現実」を基準にして疑問文と確認文が使い分けられると説明した。

(14)

	話し手の認識	現 実	日本語	中国語
I	Pかどうか疑問	現実にPかどうか不明	Pか？	P吗？
II	Pと信じる			現実にPと判断される
III				

(井上 2016b : 一部改変)

(13)の文脈では、「話し手は『大丈夫であってほしい』と思っているが、現実には大丈夫かどうか分からない」という気持ちでおり、これは(14)の表のIIのケースにあたる。この場合、日本語では「現実に大丈夫かどうか分からない」として疑問文「大丈夫ですか？」が用いられ、中国語では「話し手が『大丈夫であってほしい』と思っている」として確認文“不要紧吧？”が用いられる。相手のことを思いやる気持ちは日本語でも中国語でも同じだが、中国語では話し手の認識を、また日本語では現実を基準として疑問文と確認文が使い分けられるために、疑問文と確認文の使用にずれが生ずるのである。

中国語で平叙文が用いられるところで、日本語では確認文が用いられる、あるいは、中国語で確認文が用いられるところで、日本語では疑問文が用いられるというのは、表面的には「中国語は日本語よりも語気の強い表現を用いる／日本語は中国語よりも語気の弱い表現を用いる」ということのように見える。そのことを「中国人は率直な言い方を、日本人はひかえめな言い方を好む」というコミュニケーションの習慣の違いとして説明したくもなる。

しかし、中国語の平叙文に聞き手に情報を伝えるという意味はなく、確認文“…吧？”も聞き手に自分の判断をおしつけるという意味はない。実際には、先の「…たらどう？」と“…怎么样？”のケースも含め、「日本語の表現は対応する中国語の表現よりも語気が強い意味で使える／中国語の表現は対応する日本語の表現よりも語気が

弱い意味で使える」と見るほうが自然である（井上 2020）。平叙文・確認文・疑問文の使い方に関する日中両語のずれは、それぞれの文の意味が両言語で異なることから生じる。そして、その背景には、中国語では「話し手の認識」を、日本語では「話し手の外部世界（聞き手の認識や現実）」を基準として文の述べ方が決まるということがある。これは、中国語では話し手からの距離により指示詞“这・那”が使い分けられるが、日本語では対象が聞き手領域にあるかどうかで指示詞「コ・ソ・ア」の使い分けに関わるというのと本質的に同じである。対照研究においては、表面的な印象にとらわれずに「公平な見方」を考えることが重要である。

4. 言語使用と表現の意味

表面的な印象にとらわれずに「公平な見方」を考えるということについて、別の例をもとにもう少し考えよう。

聞き手に何か提案する場合、中国語では勧誘文“…吧”が用いられる。日本語では、疑問文「…ないか？」を用いることもあれば、勧誘文「…よう」を用いることもある。疑問文よりも勧誘文のほうが聞き手への働きかけは強い。

(15) 咱们 休息 一下 吧。 (勧誘文)

私たち 休む 少し よう

(16) a. ちょっと休みませんか? (疑問文)

b. ちょっと休みましょう。 (勧誘文)

王(2013)は、提案場面で使用される日本語と中国語の表現について次の(17)のように述べている。文中の「訴え型」「疑問型」「演述型」は、それぞれ「命令文・依頼文・勧誘文」「疑問文」「平叙文」を指す。「疎上」は「疎・目上」、「親同」は「親・同等」の意である。

(17) 日本語のフォーマルな相談場面においては、疑問型と演述型が一番多い。訴え型は疎上の場面以外で観察されたが、その使用率は疑問型と演述型より低い。訴え型の使用率が一番高いのは親同の場合だが、20%程度にとどまっている。この結果から、日本語母語話者では聞き手領域に踏み込んだ発話は控えられ、話し手の意見を述べるのみにとどまる演述型や相手の意見を打診する疑問型が好まれると言える。

中国語のフォーマルな相談場面においては、疎上の場合以外、訴え型が一番多い。特に親同の場合、訴え型の出現率は55.2%に達し、半数を超える。(略) 疑問型は各場合で観察されたが、その出現率は日本語のフォーマルな相談場面に比べると低い。中国語母語話者は疎上に対して領域に踏み込んだ発話（訴え

型)を回避するが、親しい人あるいは同位の人に対して聞き手領域に踏み込んだ発話を使いやすい。「咱们一起去看吧。(一緒に見に行きましょう。)」咱们还是换个地方吧。(他のところに変えましょう。)のような言い方で、一緒に行動を呼びかける。このような言い方で、相手への協力姿勢を示し、親しさをアピールする。
(王 2013:57、下線井上)

ここで言う「聞き手領域に踏み込んだ発話」は、「聞き手に対する働きかけが強い発話」と言い換えてもよい。「提案場面において、日本語は疑問型の文を多用し、中国語は訴え型の文を多用する」という調査結果はそれぞれの母語話者の直感と合致し、「日本語よりも中国語のほうが聞き手領域に踏み込んだ発話を用いる」という解釈も自然な解釈のように見える。しかし、この解釈は「日本語と中国語の疑問型・訴え型の文は同じ意味を表す」という見方を暗黙の前提にしている。実際には、そのような前提は必ずしも成立しない。

先に、「こうしたほうがよい」という気持ちで相手に助言する場合、中国語では命令文“…吧”を用いるが、日本語では「…たらどう?」という疑問文が使えることを見た。同じ文脈で、日本語では否定疑問文「…ないか?」も使える。これは、日本語の疑問文が命令文“…吧”に近い助言・説得の気持ちで使えるということである。

(18) (「こうしたほうがよい」という気持ちで相手に助言する)

- a. 無理しないで、病院で診てもらったらどう?
- b. 無理しないで、病院で診てもらいませんか?
- c. 不要 硬撑着， 赶快 去 医院 看看 吧。

禁止 無理する-継続 すぐに 行く 病院 ちょっと見る 勧め

(無理しないで、早く病院に行って診てもらいなさいよ。)

中国語では、話し手が「こうしたほうがよい」という気持ちであれば命令文“…吧”を用いる。一方、日本語で「…しなよ」と命令文で言うのは、「こうしたほうがよい」という気持ちを一方的に伝える場合であり、聞き手の意向を考慮に入れる場合は、話し手が「こうしたほうがよい」という気持ちであっても疑問文を用いる。この場合も、中国語では「話し手の認識」を、日本語では「話し手の外部世界(聞き手の認識や現実)」を基準として文の述べ方が決まる。

提案表現に話を戻せば、日本語には、「…よう」のほかに、疑問の「か」を付した「…ようか」という形式がある。

(19) (話し手は帰るつもりでおり、聞き手もそのつもりだと思っている)

- a. さあ、帰ろう。

- b. 咱们 回去 吧。
 私たち 帰る よう

(20) (話し手は帰るつもりでいるが、聞き手の意向はわからない)

- a. さあ、帰ろうか。
 b. 咱们 回去 吧。
 私たち 帰る よう

「…よう」と「…ようか」は、ともに「さあ」と聞き手に行動を呼びかける場合に用いることができる。(19)のように「話し手はこの動作をおこなうつもりであり、聞き手もそのつもりだ」という場合は「…よう」を、(20)のように「話し手はこの動作をおこなうつもりだが、聞き手の意向はわからない」という場合は「…ようか」を用いる。中国語では、「さあ」と聞き手に行動を呼びかける場合は“…吧”を用いる。“…吧”は、形式的には「…よう」に対応するが、意味的には「…よう」と「…ようか」の両方の意味範囲をカバーするのである。

「…ようか」は、「さあ」と聞き手に呼びかける場合のほか、(21)のように、話し手が「どうしようか」と迷って聞き手に相談する場合、すなわち話し手の意志が未確定の場合にも用いられる。中国語でもこの場合は疑問文が用いられる。

(21) (「どうしようか」と思いながら聞き手に相談する)

- a. ねえ、もう帰ろうか。
 b. 你看，咱们 是不是 先 回去？
 ねえ 私たち だ-でない ひとまず 帰る
 (ねえ、私たち、ひとまず帰るのでどう？)
 c. 要不 咱们 先 回去？
 さもなければ 私たち ひとまず 帰る
 ((ここにいるのでなければ) ひとまず帰る？)

このように、提案表現においても、中国語では「話し手の認識」を、日本語では「話し手の外部世界(聞き手の認識や現実)」を基準として文の述べ方が決まる(井上2019)。

(22)

	話し手の意志	聞き手の意志	日本語	中国語
I	未確定	未確定	ようか	疑問文
II	確定			よう
III	確定			

日本語の「…よう」は、「話し手も聞き手もこの動作をおこなうつもりだ」という気持ちの発話であり、その意味で「聞き手領域に踏み込んだ発話」と言ってよい。一方、中国語の“…吧”は、「話し手はこの動作をおこなうつもりだ」ということを述べているだけであり、「…よう」と「…ようか」の両方の意味範囲をカバーする。その意味で、“…吧”は必ずしも「聞き手領域に踏み込んだ発話」とは言えないこともある。中国語の提案場面において“…吧”が多用されるのも、「日本語よりも中国語のほうが聞き手領域に踏み込んだ発話を用いる」からではなく、単純に“…吧”の意味範囲が広いからと考えるのが自然である。

言語使用は直接観察することができるため、客観的な分析が可能である。しかし、2つの言語の言語使用を「公平に見る」ためには、客観的な分析とは別に、各言語の表現の形式と意味の関係について深く考える必要があるのである。

5. おわりに

意味の対照研究は難しい面もあるが、その分、母語や専門言語が異なる者どうして深いコミュニケーションができ、形式と意味の関係について深く考えることができる。対照研究は1人でおこなう場合であっても、その本質は「共同作業」である。対照研究のおもしろさもまさにその点にある。

用例出典

重松清『とんび』角川文庫、2011年（中国語訳：帥松生訳《世上最疼我的人》中信出版社、2012年）

参考文献

- 伊藤英人 (1990) 「現代朝鮮語動詞の過去テンス形式の用法について(1)―一烈ㄷ形について―」『朝鮮学報』137、1-53、朝鮮学会
- 井上優 (2016a) 「日本語から見た中国語の文法とコミュニケーション」『中国語教育』14、1-22、中国語教育学会
- 井上優 (2016b) 「日本語と中国語の真偽疑問文と確認文の意味」『日本語文法研究のフロンティア』、225-242、くろしお出版
- 井上優 (2018) 「「語用」か「文法」か―張英(2000)の議論の再検討―」『言語と文明』16、85-96、麗澤大学大学院言語教育研究科
- 井上優 (2019) 「コミュニケーションの対照研究における「表現の意味」の重要性」『待遇コミュニケーション研究』16、55-71、待遇コミュニケーション学会
- 井上優 (2020 予定) 「コミュニケーションにおける直接的表現と間接的表現の選択―日本語と中国語の場合―」『中国21』52、愛知大学現代中国語学部
- 井上優・生越直樹 (1997) 「過去形の使用に関わる語用論的要因―日本語と朝鮮語の場

- 合一」、国立国語研究所編『日本語科学』1、37-52、国書刊行会
梅田博之・村崎恭子 (1982)「テンス・アスペクト 現代朝鮮語」『講座日本語学 11 日本語と外国語の対照研究Ⅱ』、40-60、明治書院
王萌 (2013)『日本人と中国人の不同意表明—ポライトネスの観点から—』花書院
神尾昭雄 (1990)『情報のなわ張り理論』大修館書店
木村英樹・森山卓郎 (1997)「聞き手情報配慮と文末形式」『日本語と中国語の対照研究 論文集』、235-275、くろしお出版
张英 (2000)「语用与文化」《汉语学习》2000年第3期、50-56

付記

本稿は、2019年10月5日(土)に台湾大学で開催された「台湾大学日本語イノベーション国際学術シンポジウム」においておこなった講演「意味の対照研究のおもしろさと難しさ」の主要部分を研究ノートとしてまとめたものである。

第2節で述べた日本語と韓国語の過去形の用法のずれに関する考察(井上・生越1997)は、注1で言及した梅田・村崎(1982)の例文を出発点としている。あの例文に出会わなければ、筆者が日本語と韓国語の対照研究をおこなうことはなかった。筆者が日本語と韓国語の対照研究をおこなうきっかけを与えてくださったことを梅田先生に感謝したい。